

岡山プロフェッショナル・ビューティ専門学校

学校自己評価報告書
令和4年度（2022年度）

2023年3月

学校法人 岸学園

I. 学校の目標

本校は教育基本法および学校教育法の趣旨に基づき、エステティシャンに関する専門的な知識とより効果的な技術を修得させると共に女性としてのマナーを身に付け、広く社会に貢献できる人物の育成を目標としている。

II. 具体的な教育目標, 目指す育成人材像

1) 教育理念

- ・『感謝のこころ』を持ち美学の精神を研鑽し外面的な美だけにとらわれることなく精神的・内面的から総合的な美を追求してより多くの方々に提供できる人材育成。

2) 教育目標

【1年次取得資格】

- ・日本エステティック協会の学生最高位資格『Ajesthe 認定上級エステティシャン』資格の全員合格。
- ・日本エステティック協会の『Ajesthe 認定衛生管理者』資格の全員合格。
- ・日本ネイリスト技能試験3級検定の全員合格。
- ・日本アロマ環境協会アロマセラピー1級または2級の全員合格。
- ・日本メイクアップ技術検定協会『メイク知識検定ベーシック』資格の全員合格。

【2年次取得資格】

- ・CIDESCO 国際ビューティセラピスト資格の全員合格。
- ・CIDESCO 国際衛生管理資格受験 検討中
- ・日本ネイリスト協会ジェルネイル検定試験（初級）の全員合格。（受験希望者）

2) 目指す育成人材像

- ・お客様に対してセールス業務も出来る能力を持ち、カウンセリング能力およびスキン・アドバイス能力も兼ね備えた将来サロンの店長候補またサロン経営の出来る人材育成。
- ・国際性を持った人材育成。
- ・『感謝のこころ』を持ち続けられる人材育成。

Ⅲ. 評価項目の達成および取組み状況

1) 教育理念・目標・人材育成

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不足・・・2 不足・・・1			
	・教育理念・学校目標は定められているか	④	3	2
・教育理念・学校目標は周知徹底・実践されているか	④	3	2	1
・具体的な教育目標は定められているか	④	3	2	1
・具体的な教育目標は周知徹底・実践されているか	4	③	2	1
・具体的な育成人材像は定められているか	④	3	2	1
・具体的な育成人材像は周知徹底・実践されているか	4	③	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

『感謝のこころ』を持ち外面美容・内面美容の両立と、国内および国外においても最高位の資格を目指しその知識と技術を身に付け、卒業後はサロンにおいて即戦力と将来の店長またサロン経営を含めた、将来的にも活躍できる人材育成を目指している。 平成 23 年に 2 年学科を設立。同時に国内最高位資格の受験の認定校取得。 (トータルエステックアドバイザー資格 現在＝認定上級エステ資格) 平成 30 年に 2 年学科カリキュラムが国際基準として CIDESCO 国際認定校として正式に認可された。(日本国内 21 校のみ認可されている／2023 年 3 月現在) 2023 年 4 月より 2 年学科は 1 年学科修了生が進級する上級学科と変更する。	
点検総括	進捗具合 3.7 (評価項目の 6 項目の平均)
備考 1. 国内エステ業界での最高位資格「認定上級エステ資格」は 11 名合格／12 名受験と 1 名不合格者。(不合格者は認定エステ資格を取得) 2. 平成 29 年度より (CIDESCO 国際仮認定校として第 1 回目受験) 6 年連続 CIDESCO 試験に全員合格している。(全 32 名全員合格 2022 年 T11 期：4 名中 4 名合格)	

② 今後の課題

<p>本校が目指す資格取得において、1 年学科取得 (1 年次全員受験) の国内最高位の資格およびメイク・ネイルまたアロマセラピー資格は連続全員合格であり、2 年学科で目指す CIDESCO 国際ライセンスも連続全員合格であるが、どの資格も県内においては認知度が低く、知られていない現状である。</p> <p>学校教育方針および各資格についても、資格の仕組みと共に、高校生・高校の先生方を始め、一般の方々へも女性の職業としても周知・拡散できるよう広報活動を広げたい。</p> <p>エステティック資格の受験も県内・外の需要とサロンにおける必要性を考慮して受験資格を検討する必要性がある事より、2023 年度より 2 年学科を上級学科とする事とした。</p>

2) 学校運営

評 価 項 目	適 切 ……4		ほ ぼ 適 切 ……3	
	や や 不 足 ……2		不 足 ……1	
・学則は適切に定められているか	④	3	2	1
・学則は周知徹底されているか	④	3	2	1
・年間事業計画は定められているか	④	3	2	1
・校務分掌は効果的に機能しているか	④	3	2	1
・教職員の情報伝達・意思疎通はなされているか	④	3	2	1
・各業務の効率化は図られているか	4	③	2	1
・学校の特色を把握しているか	④	3	2	1
・特色ある学校運営に取り組んでいるか	④	3	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

<p>学則は適切な内容であることを確認し、エステティック学科の単科という特色を生かし改善点等必要な箇所があれば理事・評議員会の意見も取入れ変更し適切になる様努めている。</p> <p>新入生ガイダンス時には全教員が参加の上、学則および細則の説明を徹底している。</p> <p>校務分掌については、毎年3月教職員全体会議を実施し、年間の公務分掌について通達。</p> <p>学校の特色として、県内・外においても唯一となる国内・外での最高位資格取得の認定校であること、また少人数制の実習授業の展開により技術レベルに差ができない事を優先するという教育指針の実行に努めている。</p> <p>本校理事長の経営する化粧品代理店の経営グループの協力により、展開しているサロンの研修にも参加し、直営店サロンを始めとする協力サロンでの実践研修も実施している。</p>	
点検総括	進捗具合 3.9 (評価項目の8項目の平均)
<p>備 考</p> <p>1. 協力会社である化粧品代理店ではフェイシャルエステティックの施術も行なっており各学年において協力サロンにてサロン研修を実施。</p> <p>2. 本部直営店管轄の学生サロンにて外部モデルでの症例研究等展開のサロンを所有。</p>	

② 今後の課題

<p>本年度はコロナ感染症拡大のため、外部モデルによる実習はシデスコ症例研究として最小限として行なった。</p> <p>昨年年間行事を参考にして、感染拡大の対策も定着した中で協力サロンでのサロン実習も例年より少ない時間ではあるが実施する事が出来たので、来年度は例年に近い状態に実施出来るよう準備予定である。</p>

3) 教育活動

評 価 項 目	適 切 ……4 ほぼ適切……3 やや不足……2 不 足 ……1			
	・各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界のニーズに向け正しく方向付けられているか	④	3	2
・修業年数に対応した教育到達レベルは明確にされているか	④	3	2	1
・カリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・各科目はカリキュラムの中で適正に位置づけられているか	④	3	2	1
・各科目は教科の目的・目標は定められているか	④	3	2	1
・キャリア教育の視点にたったカリキュラムや教育が実施されているか	④	3	2	1
・教員による授業評価の実施・評価体制があるか	④	3	2	1
・学生による授業評価の実施・評価体制があるか	4	③	2	1
・育成目標に向け授業を行なう事が出来る教員を確保しているか	④	3	2	1
・教員のスキルアップは図られているか	④	3	2	1
・成績評価の基準は明確化されているか	④	3	2	1
・履修時間数管理は適切にされているか	④	3	2	1
・資格取得の指導体制は整っているか	④	3	2	1
・成績不良の学生支援は適切になされているか	4	③	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

<p>カリキュラムは認定校となるエステティック協会による規定および国際認定校の規定に基づく認定のカリキュラムにて編成。1年学科では『認定上級エステ資格』を始めネイル技能検定3級、メイクアップベーシック検定、アロマ検定1級または2級を全員受検。</p> <p>2年学科では業界ニーズに合わせたジェルネイル初級から衛生管理士検定およびCIDSCO国際ライセンスを目指す学科としている。</p> <p>教員研修は昨年同様に関連協会および支援会社の研修会へ本年度は Zoom 研修に参加したが、実技指導も Zoom 実施のため少し物足りなさが感じられる。</p> <p>教員の資格は特に実習担当教員には認定校協会の規定が定められており、実習教員は全員その規定資格を有している。</p> <p>成績評価基準は学則記載、90点以上秀、80点以上優、70点以上良、60点以上可、60点未満を不可としているが認定協会実施の資格試験は70点以上が合格のため、学内試験も70点未満の学生には再試験また課題の提出としている。</p> <p>技術不足学生には特別指導時間として放課後また授業のない土曜日等に強化実習を行なっている。</p>	
点検総括	進捗具合 3.9 (評価項目の14項目の平均)

備 考

1. 教員研修および授業担当教員について、認定校協会が定める講師基準があり規定基準を満たしている。
2. 同協会による研修会が年数回実施され他の認定校においても通用する『認定講師』資格も4名の教員が取得。この教員は研修に参加する事が義務付けており、その他各教員が必要と思う研修に積極的に参加する事を奨励している。
3. CIDESCO ライセンス取得教員は4名が常勤（他非常勤1名）CIDESCO 実習は、取得教員が担当している。
これは団体が示す教員基準をはるかに超える指導体制でありエステ専門校として充実を維持している。
4. 教員研修においては今後リモート研修が実施されることも決定している研修もあり参加機会を増加して最新の情報収集を充実させる。
5. 本年度後期より、卒業生が外部講師として特別授業を実施している。

② 今後の課題

エステ資格を始めとする各技術試験のレベルが上がってきている中で、入学生全てを技術的に合格レベルに指導する事がだんだん厳しくなることが懸念される。

実習教員はすべて女性教員のため、出産・育児等により今後継続的に指導できる体制を確保することが課題である。

本年度よりサロン経営の卒業生を外部講師として協力をお願いしている。

本校卒業生は上位資格を取得しているため、卒業生の中から教員としての募集を念頭に検討したい。

4) 教育成果

評 価 項 目	適 切 ……4 ほぼ適切……3 やや不足……2 不 足 ……1			
	・CIDESCO 国際ライセンスの合格率	④	3	2
・認定上級エステの合格率	4	③	2	1
・ネイリスト技能検定3級の合格率	④	3	2	1
・メイクアドバイザー（ベーシック）検定の合格率	④	3	2	1
・アロマ技能検定1級または2級の合格率	④	3	2	1
・ジェルネイル技能検定初級の合格率	④	3	2	1
・その他 個別受験の各資格の合格率	4	③	2	1
・関連企業への就職率	④	3	2	1
・関連企業就職率拡大の活動は行なわれているか	④	3	2	1
・入学生は目的達成を図り卒業しているか	4	③	2	1
・卒業生の社会的活躍を把握しているか	4	③	2	1
・卒業生からの学校評価を把握しているか	4	③	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

<p>2年学科生は6年連続の全員合格。1年学科生は12名受験中1名が認定上級不合格（不合格者は認定資格を取得）</p> <p>就職については、県内・外問わず卒業生は全員エステティック関連企業へ就職している。退学学生は、ネイル専門への就職等の希望により進路変更、勉強意欲の低下と家庭問題より退学、また高校からの体調不良が再発のため退学と3名の退学者が発生。</p> <p>卒業生の多くは県外への就職しているものの卒業生とのメール・電話等での連絡網もありまた学校へ訪問してくれている卒業生も多く、同級生の情報収集は努力している。</p>	
点検総括	進捗具合 3.6 （評価項目の12項目の平均）
<p>備 考</p> <p>1. 学生は入学から卒業まで、エステティックへの興味を高めその目標も重視している。</p> <p>2. エステティシャンに必要である資格取得と学生自身が自覚しているので意欲的である。</p> <p>3. コロナ禍の影響で年1回となったが保護者による参観日を実施。家庭ではわからない真剣な授業への取組みが保護者にも良く解り参加して良かったと評価された。</p> <p>4. 退学相談の学生には、担任および学生主任の面談や保護者面談を数回繰り返し双方の気持ちを伝える懇談会を実施している。</p>	

② 今後の課題

<p>モデルだけでなく真剣に授業に取り組んでいる学生の様子には、保護者の皆様が感動してくれたので、来年度以降も保護者の来校に繋がる参観日等、次年度はこのような機会を拡大したい。</p>

5) 学生支援および保護者との連携

評価項目	適切・・・4	ほぼ適切・・・3	やや不足・・・2	不足・・・1
	・学生相談に関する体制はできているか	④	3	2
・学業指導体制はできているか	④	3	2	1
・就職指導体制はできているか	④	3	2	1
・個人的適応指導はできているか	④	3	2	1
・社会的指導はできているか	4	③	2	1
・学生の経済側面に対する支援体制はできているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はできているか	④	3	2	1
・課外活動に対する支援体制はできているか	④	3	2	1
・県外からの入学生に対して支援体制はできているか	④	3	2	1
・保護者との連携はできているか	④	3	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

学生とし技術の修得、就職活動また私生活においても全員女子学生という事もあり全教員で共有の指導に努めている。クラスは担任制とし、朝・夕のHRはできる限り全教員が参加し学生個々の様子を確認する。また個人面談は約3ヶ月毎に行い、就職指導は担任および専任教員が担当する様にしている。

健康管理として、年1回の健康診断の実施。また多くの企業から就職試験時に別途健康診断を実施している。

県外学生および遠方からの通学生に対しては、生活費補填の為のアルバイトへの負担を軽減するため、学校規定により該当学生に対して毎月支援をしている。

保護者との連携について、入学前より電子メールを学生および保護者のそれぞれに登録、連絡網として活用している。本学科においては、モデルによる実習が必須のため日頃よりご家族の方々にモデルとして参加して頂く機会も多く随時、保護者面談を実施している。また、実習授業参観日を設定し学生生活の把握とより連携を深めるようにしている。

※2023年度も継続して、修学支援新制度の認可校となり学生支援制度の強化が行える。

点検総括

進捗具合 3.8 (評価項目の10項目の平均)

備考

1. 本年度および次年度も高等教育による「修学支援新制度」の対象校として認可される。
2. モデルが必須となる資格試験のため、ご家族の方々の協力が重要となる。
3. 実習内容からモデルとしても女性であること、健康であること条件がある。

② 今後の課題

- ・修学支援新制度対象校の継続条件を満たすよう学校運営を維持すること。
- ・感染対策は継続しつつ従来の実習研修授業も充実させる予定である。

6) 教育環境

評 価 項 目	適 切 ……4	ほ ぼ 適 切 ……3	や や 不 足 ……2	不 足 ……1
	・施設・設備は教育上十分に整備されているか	④	3	2
・学校行事を通じ学生間の交流は図られているか	④	3	2	1
・課外授業・研修等の体制はできているか	④	3	2	1
・インターンを含む実践授業の体制はできているか	4	③	2	1
・校内は清潔に保たれているか	④	3	2	1
・安全管理は適切になされているか	④	3	2	1
・防災体制は整備されているか	④	3	2	1
・通学の利便性に配慮できているか	④	3	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

資格取得の為だけの教育だけではなく就職先での即戦力となるためできる限り最新の設備を知り多種の機器類の取扱いもできるよう設備の充実を図っている。

次年度に向け、機器の増設（国際基準用機器）を行なった。

学校行事として、健康の日やオリエンテーション日また季節ごとのレクリエーション日などドッジボール大会、課外での行事や同学科による全国一斉の活動を年に数回実施し学生間の交流を深めている。（昨年同様今年は実施出来なかった）

昨年に続き感染状況の悪化により緊急事態宣言発令時には、時差式登校をはじめ時短授業およびネット回線授業での対応可能科目については積極的に感染対策を行なった。

次年度からは、正常な状態での教育活動が行える予定である。

点検総括

進捗具合 3.9 （評価項目の8項目の平均）

備 考

1. コロナ感染拡大の中、インターン実習は関連サロンとイベントのみの実施となった。

1. 校内防災機器の点検、水周りの清掃点検を定期的専門業者による点検を実施している。

② 今後の課題

感染拡大対策は引き続き実施しながら、インターン実習の受入れ先をもう少し拡大させて、代わりとなる研修が行なえるようにしたい。

7) 学生募集・受入れ・入試制度

評 価 項 目	適 切 ……4 ほぼ適切……3 やや不足……2 不 足 ……1			
	・学生募集は適正に行なわれているか	④	3	2
・学生募集に関して学校の現状は正確に伝えているか	④	3	2	1
・学生募集に関して教育成果は正確に伝えているか	④	3	2	1
・入学選考は適切かつ公平に行なわれているか	④	3	2	1
・授業料等納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・書費用・資格受験料等正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学生支援の制度は適切に行なわれているか	④	3	2	1
・保護者の方への説明また募集活動等の理解を得ているか	④	3	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

専属の広報担当教員を配置し高等学校訪問・ガイダンス参加および体験入学を中心に本校の教育方針・目指す資格の説明。特に体験入学では保護者の方の同席また入学を検討している学生の保護者の方の理解も確認するように努めている。

2023年度より2年学科は1年学科修了生が進級する上級学科と変更し、それぞれの目指す資格の必要性を見極めた進路決定をする事を重要視した。

本校ではAO入試による入学生も多いが、高等学校時の出欠や成績が本校の規定に達する学生には『特別推薦入試』により入学する学生には、それぞれ入学金の免除制度を設けている。

同時に県外からの下宿生、遠方通学生、大学・短大新卒業生、2年学科生への皆勤手当と修学支援のための支援制度を設けている。

※ 令和4年度も修学支援新制度の認可校として認可された。

点検総括	進捗具合 4.0 (評価項目の8項目の平均)
------	------------------------

備 考

1. 特別推薦入学生およびAO入学生への入学金免除制度。
2. 県外からの下宿生への毎月の支援金支給制度
3. 本校規定に該当する遠方通学生への毎月の通学支援金支給制度
4. 2年学科生への皆勤手当として毎月累計された支給分を貯蓄し、国際試験受験料の一部として支給。

② 今後の課題

資料請求数は毎年増加傾向にあるが美容全般の請求も多いが、「エステなら本校へ」の声もよく聞くようになり、更に学校紹介へ取り組みは強化したい。

近県からの入学生も毎年あり近県へのガイダンスにも積極的に参加し次年度は1・2年生への接触を図り、入学検討時に本校を知っていただく活動を強化したい。

8) 財務

評 価 項 目	適 切 ……4		ほ ぼ 適 切 ……3	
	や や 不 足 ……2		不 足 ……1	
・中期的な財務基盤は安定しているか	4	③	2	1
・予算・収支計画は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・会計監査は正確かつ厳格にされているか	④	3	2	1
・寄附金募集活動は十分行なわれているか	4	3	②	1
・寄附金の管理処理は正確に行なわれているか	④	3	2	1
・財務情報公開は適切に行なわれているか	④	3	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

令和元年度より入学生が増加傾向となっている。引続き募集活動を強化し継続的に安定させた学生数を確保したい。

学生数の増加と一定額の寄附金は得られているので、学校運営には大きな影響はない。本校の学科内容および特徴を広く理解していただき、学生数をもう少し増やしたい。

※短期借入金の返済を完納し、昨年以上の財務決算を行った。

点検総括

進捗具合 3.5 (評価項目の6項目の平均)

備 考

1. 財務関係の監査は毎年適切に実施されている。
2. 短期借入金はすべて返済し、未払金の返済についても昨年以上の財務処理を行った。
3. 情報公開については、校内の閲覧およびHPにて公開としている。

② 今後の課題

本年度および次年度入学者数は例年より3年間連続で多くなっているためこの状況を継続できるよう活動の拡大をしたい。

ホームページによる情報公開はすべて公開を完了しているため、継続的に更新を行なう。

コロナ感染拡大もまだ影響が継続されている中、外部からの寄附金募集活動の呼びかけは実施しているが、成果は見られない。

9) 法令遵守

評 価 項 目	適 切 ……4		ほ ぼ 適 切 ……3	
	や や 不 足 ……2		不 足 ……1	
・認定校協会等の設置基準の遵守と適正な運営をしているか	④	3	2	1
・業界設定の自主基準を遵守しているか	④	3	2	1
・県および認定校協会への報告また基準を遵守しているか	④	3	2	1
・個人情報保護に基づきその管理および対策をしているか	④	3	2	1
・自己点検を実施しその問題点等の改善に努めているか	4	③	2	1
・情報公開は適切に行なわれているか	④	3	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

法令および認定校協会への報告また県等への報告は提出を遵守している。
 サロン業務も含め、業界の自主基準またメーカー規定の遵守を第一に考えまた、学生指導へのフィードバックに努めている。
 個人情報の漏洩等起こらないよう、全教職員に徹底すべくその取扱いに十分配慮する様にしている。
 教員の確保に取り組んでいるが関連団体による教員規定を満たす対象学生は本校の卒業生しか該当しない為 確保には困難を要している。
 自己点検評価により、改善点の調査またその改善に努めるようにしている。
HP その他の方法により必要項目の情報公開完了している。他校のような多種の情報量ではないが必要最低限の公開完了。

点検総括	進捗具合 3.8 (評価項目の6項目の平均)
------	------------------------

備 考

1. 認定校協会への実施報告は年度初めおよび修了時、報告の義務がある。

② 今後の課題

現在HPによる必要最低限の情報公開の完了となっているが、更新と内容について他校の状況を検討しながら進めていきたい。

10) 社会貢献

評 価 項 目	適 切 ……4	ほ ぼ 適 切 ……3	や や 不 足 ……2	不 足 ……1
	・教育施設・設備を活用した社会貢献を行なっているか	4	③	2
・教育内容に関する知識・技術を地域貢献に繋げているか	④	3	2	1
・学生のボランティア活動等を支援しているか	4	③	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

<p>各種試験会場として要請があれば可能な限り施設を提供している。</p> <p>県内での正しい美容関連の知識・技術向上や認知度向上また、業界の正しい認識においても、認定校の役目と考えている。そのためには地域へ広く拡散する為にも協力体制は常に持っている。 現在エステ関連、ネイル関連、カラリスト関連、認定校協会の関連講義の登録試験会場としてまた各団体における中四国での講習会会場として連携している。</p> <p>デイケアサービスへの訪問活動また、学生参加のボランティア活動に年2・3回参加している。(今年度は感染拡大よりデイサービスへの実施は出来なかった)</p>	
点検総括	進捗具合 3.3 (評価項目の3項目の平均)
<p>備 考</p> <p>1. 認定校協会による中四国地域の活動へ積極的に参加。(本年度は感染対策実施に中、2つの関連のイベントへの参加が出来た。)</p> <p>関連加盟協会実施の正しい知識・技術と活動の正当化を担う、CIDESCO 日本支部の監事、エステ協会およびメイク協会登録試験官への任務と校内各部署の責任者はその役職に就いている。</p>	

② 今後の課題

<p>開校時より実施している、デイケアサービス等での活動も安定化しているが、依頼希望の時期とカリキュラムが合わない事もあるので派遣場所の拡大も必要である。</p> <p>高等学校への派遣希望も年に数校あるが全てに対応できていないので、内容・方法を検討したい。</p> <p>本年度も、コロナ感染拡大の影響を受けていたが、後期に入り校外活動も少しずつ戻り、感染対策の強化を行ない、関連のイベントへの参加ができた。</p> <p>関連協会の行う様々な研修・イベント等も次年度はほぼ正常時に戻る予定である。</p>

IV. 学校評価の総合的な評価結果

開校時より本校が求めてきた国内および国外での信頼度の高いエステ資格への知識・技術の指導。また卒業生が途中で退学等もなく全員が関連企業への就職と本校が目指す第一の目標はおおむね達成できていると評価している。

平成27年度学校名称を変更後より、毎年資料請求数は増可している事から認知度は以前より上昇していると評価している。しかし『美容関連』との認識が非常に高くまた本校の設置の『エステティック』そのもの、および業界全体の認知度もかなり低いと感じている。民間資格であるが故の知識・技術を含め資格を持たない方のトラブルから社会での良くない報道や悪いイメージ感もある中で、真剣に学んだ学生達の社会貢献にも繋がる様、技術指導や社会人としても指導も強化し、広く興味を持っていただけるよう努力したい。

若い方々への興味と魅力を伝え、本校の最大の課題である学生数の増加を図ることにより財務的な安定性を確立させる努力は今後も継続が必要であるが昨年の入学生の増加があり本年度も入学生も増加した。

2023年度より2年学科を1年学科修了生が進級する上級学科へと変更し、より実践的かつ現在の業界へのニーズに沿ったカリキュラム展開を実施することにした。

更に広報活動も充実させて学生数の増加・継続に取り組みたい。